

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 25号

2012/11/19 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：木曜日までコートジ政情不安背景に上昇し、金曜に利食い調整で大幅下落

①週最高：LDN 市場£1,602 / NY 市場\$2,483 (共に11月15日) 先週比 LDN+£16/NY+\$21  
②週最低：LDN 市場£1,545 / NY 市場\$2,375 (共に11月12日) 先週比 LDN+£27/NY+\$35  
差額 (①-②)：LDN 市場-£57 / NY 市場-\$108

#### 【11月12日】(月)

LDN・NY ココア両市場とも続伸ガーナの収穫に懸念(12日)

ニューヨーク市場はガーナのカカオ豆収穫高が予想よりも縮小するとの懸念などを背景に続伸した。3月きりは16ドル(0.7%)高の**2,375ドル**で終了。ロンドン市場も続伸。3月きりは7ポンド(0.5%)高の**1,545ポンド**で引けた。ガーナのカカオ豆監督機関であるココア委員会(Cocoa Board)は、10月12日に年度入りして以降、同月25日までの同国カカオ豆買い付け量が13万8294トンと、前年同月比で37%減になったと発表。この統計を受けて、カカオ豆収穫への懸念が高まった。

ただ、マレックス・スペクトロンのフィル・ホブクラフト氏は、「前年の買い付け量は、密輸や申告の水増しがあり、人為的にかさ上げされていた。何らかの基調が表れるまでは、この統計を重要な指針として活用するのは時期尚早だ」と指摘した。

#### 【11月13日】(火)

LDN・NY ココア3営業日続伸

ココア先物は小幅ながら3営業日続伸。ポンドが対米ドルで強含んだことが、ニューヨーク市場では一定の支援要因となった

ニューヨーク市場の3月きりは、12ドル(0.5%)高の**2,387ドル**と3営業日続伸で終了。ロンドン市場の3月きりも、4ポンド(0.3%)高の**1,549ポンド**と3営業日続伸で引けた。ロンドンのブローカーは、足元の相場は1513~1625ポンドのレンジ取引と指摘し、「相場は安定しており、現行のレンジ内で満足しているようだ」と話した。

【11月14日】(水)

LDN・NY 両市場とも大幅続伸。4営業日続伸

コートジボワールのワタラ大統領が内閣総辞職を決めたことから、政情不安への観測が強まり大幅続伸。ニューヨーク市場の3月きりは70ドル(2.9%)高の2,457ドル、ロンドン市場の3月きりは43ポンド(2.8%)高の1,592ポンドでそれぞれ引けた。(ロイターES時事)

【11月15日】(木)

LDN・NY 両市場とも続伸=コートジボワールの供給懸念で

主要生産国であるコートジボワールで予想外の内閣総辞職があったため、同国からのココア豆の供給に懸念が高まり続伸。

ニューヨーク市場の3月きりは26ドル(1.06%)高の2,483ドルで終了。一時2488ドルを付けた。

あるヘッジファンドマネジャーは「この上昇は長くは続かないだろう。需給要因の面から見ると、この上昇を正当化する理由は何もない。コートジボワールはなおミッドクロップを輸出しなければならず、欧州は景気後退に陥っている」と述べた。ロンドン市場の3月きりは10ポンド(0.63%)高の1,602ポンドで引けた。

【11月16日】(金)

6営業日ぶり反落=コートジボワールの懸念後退で

LDN・NY 両市場とも、6営業日ぶりに反落した。最大産地、コートジボワールの内閣総辞職後の政情不安への懸念が後退し、利食い売りが出た。

ニューヨーク市場の3月きりは85ドル(3.4%)安の2,398ドルで引けた。前日には3週間ぶり高値の2,488ドルを付けていた。ロンドン市場の3月きりは49ポンド(3.1%)安の1,553ポンドで終了した。

あるディーラーによれば『コートジボワールの政情は自然と基に戻っていくよ、ココアの流通もしているようだ。特別大きな心配をするような状況ではないと見てるよ。市場も丁度、政情に対する懸念が消えて、ただ前の売買のレンジに戻っただけという感じだ』と現状のレベルが普通のレベルであると考えているようだ。

## 2,ガーナの新物買付け数量が17万4,091トンに、11月1日まで統計(11/13)

ガーナの2012/2013シーズンの最初の3週間が終了した11月1日までの買付け数量が前年同時期対比で34.2%減少となる17万4,091トンとなったことが、カカオ豆監督機関であるココボードのデータで判明した。ゆっくりとした新シーズンの開始により、一部のガーナの生産者自国通貨安と支払いの遅延に不満を募らせ、隣国のコートジボワールへの密輸を行っているという報告が出ていた。

ココボードは、天候の悪さを問題視している。

『通常は、新物の当初の買付けは予測を下回るパターンが多いが、今シーズンは得に安定しない天候状況が原因となっている、もう少し降雨量が必要で、さらに適度な日照がないと、カカオポッドの成長

を促進させない』副長官の Kwabena Poku Asante 氏は説明する。

『私達は、12月から1月の間に天候パターンが改善されると期待しているが、でも今の状況は当面変化はないだろう』

統計によると、10月12日の週から開始し、3週目にあたるこの週は1週間で35,424トンの買い付けが行われ、前年同時期の48,839トンより大きく減少している。

上記 Asante 氏は、自国通貨のセディ安が原因で生産者がコートジにカカオ豆を密輸しているという報告を退け、どんな密輸の活動もそれは取るに足りない内容の程度だと説明している。

『ガーナ産のカカオを他の国へ持っていくということは経済合理性がない、自国通貨安環境下での交換比率は問題ではない。』と上述の Asante 氏は説明した。

### **3、ICE 認証ココア・コーヒー貯蔵施設、復旧まで利用停止＝米ニュージャージー州 (11/17)**

インターコンチネンタル・エクスチェンジ (ICE) は16日、コンチネンタル・ターミナルが運営するニュージャージー州の貯蔵施設について、ハリケーン「サンディ」による被害の復旧工事が完了するまで、利用停止を続けると発表した。

コンチネンタルはニュージャージー州に、ICE 認証のココア倉庫 (5カ所) とコーヒー倉庫 (3カ所) を運営。そのうちカーニーの倉庫では、さらに4900袋 (1袋=62~69キロ) の認証ココアが新たに水浸しになったとの被害報告が出されている。

これにより貯蔵施設全体での同社の損失は、ココア7100袋、アラビカ種コーヒー3万5000袋 (1袋=60キロ) となった。ICE の倉庫・ライセンス委員会は、カーニーのリバー・ターミナルにある貯蔵庫のひとつにモラトリアム (取引一時停止) を発令。この結果、同倉庫でのココア、コーヒーの受け渡しは一切できなくなる。

### **4、カカオ豆需給予測発表。12/13 シーズン単体では供給不足も、持ち越し在庫が豊富(11/15)**

先物ブローカーの Marex 社は 2012/2013 シーズン単体のカカオ豆需給予測は、10万7千トンの不足だが、カカオ豆の在庫は豊富であろうとの予測を発表した。

この報告書の中では、新シーズンでは世界全体の磨砕数量が穏やかに持ち直おす一方で、西アフリカのメインクロップの収穫数量が減少する予測から、不足が生じるだろうと説明している。

Marex 社はまた、2011/2012 シーズンのカカオ豆需給バランスは21.1万トンの余剰になるだろうと予測しており、在庫数量は記録的な多さになると考えている。

『予測に従えば、2012/2013 シーズンは僅かな在庫不足になる可能性が強いが、豊富な世界的なカカオ豆在庫が通常供給不足のシーズンに見られるようなリスクを埋める役割を果たすだろう』と Marex 社は意見を述べている。

このブローカー会社は、2012/2013 シーズンの世界のカカオ生産数量は西アフリカの主要産地であるコートジとガーナのメインクロップの数量が減少することが起因し379.8万トンとなる予測で前シーズンの402.6万トンから減少する。

また、2012/2013 シーズンの世界全体の磨砕数量は前シーズンより2.44%増え、386.7万トンとなる見込み。

『欧州と北米市場で経済成長の見通しがあったとしても、カカオ豆の磨砕数量は大きな回復は見られな

いであろう』と Marex 社は説明している。

## **5、コートジの磨砕業者、カカオ豆確保の為、固定価格を上回る価格でカカオを購入(11/13)**

コートジでは現在、磨砕業者と主要な輸出業者は政府が主導して決めた港での売り渡し価格キロ当たり 805CFA フラン（≒\$1.56）以上にて買付けを行っている。これは今後カカオ豆の生産数量が落ちるかもしれないという憶測を払拭し、カカオ豆の供給を保証する為であると輸出業者が説明した。

2012/2013 シーズンは 10 月 3 日に開始し、産業構造改革の取り組みの下で生産者への収入向上を狙っており生産者からの買付け価格をキログラム当たり 725CFA フラン（\$1.41）、港での価格を 805CFA フラン（≒\$1.56）で固定した。

生産者買付け価格は業界内で尊重されており、主要な輸出業者は港での引き取り価格に対しても適正な価格を支払い取引を始めている。

『いくつかの大きな輸出業者は 810CFA フランで買付けを行っているし、磨砕業者は固定価格以上の 820 から 840CFA フランを支払っている。磨砕業者は彼らの工場が十分に稼働出来るだけのカカオ豆を入手できないのではないかと心配している』アビジャンに拠点を置く欧州の輸出業者は言う。

『磨砕工場は、稼働できなければ大きな損失を被ることになる』

『我々は、今年度の年間取扱数量の目標にカカオ豆の買付け数量が届かないことを危惧しており、今なるべく多くのカカオ豆を集めようとして、高い価格を支払ってでもカカオ豆を買っている』アビジャン拠点の磨砕業者の仕入れ担当者は説明する。

『私達は、既に顧客と契約している数量を製造し販売して、収益を出さなければならない』ある磨砕業者は言う。

コートジは今シーズンから、これまで 20 年間にわたり国内の磨砕業者に対して許可していた輸出補助金により、実質輸出関税の割引になっていた制度を撤廃した。国内磨砕業者の競争相手でもあるカカオ豆輸出業者はカカオ豆の買い付けにおいて、国内磨砕業者への税優遇は不公平だと主張していた。

『世界的な大手企業でもある磨砕業者はコートジではキログラムあたり 840CFA フランまで支払っている。彼らがこの価格で、全ての価格を回収できるかどうかは分からない』国内工場は持たないサンペドロ港をベースにする輸出業者は意見を述べた。

コートジは 2011/2012 シーズンは 147 万トンの生産数量があり、2010/2011 シーズンの 150 万トン以上の収穫数量から僅かに減少しただけであった。

今シーズンは、当初、産業構造改革の影響でカカオ豆の農園から輸出港までの供給の流れに影響が出るのではないかと懸念されていたが、比較的順調に新シーズンはスタートした感がある。

港へ着荷するカカオ豆の数量は過去 2 週間は、大凡 1 週間に 5 万トンで新シーズン合計の港への着荷数量は大凡前年と同じ数量となっている。

しかしながら、前シーズンは生産者のストライキで 10 月は港への着荷数量が非常にすくなく、結果としてシーズン前半の着荷数量にも影響を与えた。

前シーズンは、ストライキが終了した 11 月中旬から港への納品は増え始めたが、今シーズンは今年の年頭に乾季が続いたことが影響し、前シーズンの収穫数量を大きく割り込むと予測されている。

ブローカーの Marex Spectron 社は木曜日に 2012/2013 シーズンの世界の 카카오豆需給は世界の磨砕数量が穏やかに回復し、西アフリカの生産国のメインクロップの数量が減少する予測であることから 10 万 7 千トンの不足との予測を発表した。

## 6、多雨、品質不良がカメルーンのカカオ豆価格に影響(11/15)

カメルーンのカカオ豆バイヤーによると、カメルーンの主要な 카카오の産地での生産者出荷価格が 11 月に入り、多雨による 카카오豆の品質低下と生産地からの輸出センターまでの道路環境の悪化により、19% 程度下落しているようだ。

世界第 5 位の 카카오生産国であるカメルーンでは数週間続いた降雨があり、その影響から、ブラックポッド病が発生しており、2011/2012 シーズンでは当初の予測が 25 万トンであったのに対して、最終的な収穫数量が 22 万トンに落ち込んだ事に引き続いて、大きな災難が生産者を襲っている。

主要な貿易拠点である南西州の Kumba では 카카오豆の価格が、先月の 1,150-1160CFA フランから現在 950CFA フラン (\$1.84) まで下落している。

『市場にある 카카오豆の数量が減少しているのでバイヤーはもう首都のほうから買付けにはこないよ』 Kumbaにあるカメルーンの主要な輸出業者である Cameroon Marketing Commodities (CAMACO)のマネージャーは言う。

『更に、長く降り続いた雨が多くの 카카오生産地区の道路環境を悪化させてしまった』彼は付け加える。

同じような天候の状態は、南、中央、東州でも見られ、恒常的に多雨が続き、日照りが不足し、適度な 카카오豆の乾燥工程を行う事が出来なくなっている。

『市場にはほとんど 카카오豆がない状態なので、買付けに来るバイヤーの数も少なくなったので、 카카오豆の買付け価格を交渉してくる人も非常に少ない』南州の Sangmelim の 카카오生産者は言う。

南西州と中央州がカメルーンでは主要な 카카오生産地であり、この 2 州で其々国全体の約 40%の生産数量がある。南州と東州は其々15%と 5%程度である。

中央アフリカの 카카오シーズンは 8 月 1 日から開始し、7 月 31 日に終了する。メインクロップは 10 月から 1-2 月まで続き、ミッドクロップは 4 月から 6-7 月までである。

下記は 11 月中旬時点でのカメルーン各地域の生産者出荷価格である。

	<u>11 月</u>	<u>10 月</u>
南西州		
- Mamfe:	850-900 CFA/kg (\$1.64-1.75)	1,050 CFA/kg (\$2.03)
- Konye:	925-935 " (\$1.79-1.81)	1,100 " (\$2.13)
- Kumba:	950 " (\$1.84)	1,150-1,160 (\$2.23-2.25)
- Muyuka:	950 " (\$1.84)	1,110 " (\$2.13)
- Mbonge:	900-935 " (1.75-1.81)	1,100-1,125 " (\$2.13-2.18)

中央州:	<u>11月</u>	<u>10月</u>
- Bafia:	950-985 " (\$1.84-1.91)	1,100 " (\$2.13)
- Emaná:	980 " (\$1.90)	1,100 " (\$2.13)
- Mbalmayo:	950 " (\$1.84)	1,075-1,100 " (\$2.08-2.13)

南部州:		
- Ebolowa:	875 "(\$1.70)	1,075-1,090 "(\$2.08-2.11)
- Sangmelima:	850-875 "(1.65-\$1.70)	1,075 " (2.08)

東部州:		
- Bertoua:	715 "(\$1.39)	875 "(\$1.70)
- Yokadouma:	700 " (\$1.35)	800 " (\$1.55)

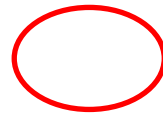
(\$1 = 515.3450 CFA francs)

《カメルーンの各州の概要について》 出典；ウィキペディア

	州名	フランス語	州都	人口(1987年)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1.	アダマワ州	<i>Adamaoua</i>	ヌガウンデレ	495,185	63,691	8
2.	中央州	<i>Centre</i>	ヤウンデ	1,651,600	68,926	24
3.	東部州	<i>Est</i>	ベルトゥア	517,198	109,011	5
4.	極北州	<i>Extrême-Nord</i>	マルア	1,855,695	34,246	54
5.	リトラル州	<i>Littoral</i>	ドゥアラ	1,352,833	20,239	67
6.	北部州	<i>Nord</i>	ガルア	832,165	65,576	13
7.	北西州	<i>Nord-Ouest</i>	バメンダ	1,237,348	17,812	69
8.	南部州	<i>Sud</i>	エボロワ	373,798	47,110	8
9.	南西州	<i>Sud-Ouest</i>	ブエア	838,042	24,571	34

	州名	フランス語	州都	人口(1987年)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10.	西部州	Ouest	バフォーサム	1,339,791	13,872	97

《各州の位置情報》 出典：ウィキペディア



・・・主要カカオ生産地



・・・カカオ生産地

参考記事)

\*弊社が取り扱っております、西アフリカの小国シエラレオネの大統領選挙の記事。

### シエラレオネ、野党候補が猛追＝「血のダイヤモンド」の舞台で大統領選 (11/17)

【ロンドン時事】西アフリカのシエラレオネで17日、大統領選と議会選の投票が行われる。大統領選は、与党・全人民会議党（APC）を率いる現職のコロマ大統領と、野党シエラレオネ人民党（SLPP）候補ジュリアス・マーダ・ビオ氏の事実上の一騎打ち。予想では2期目を目指すコロマ氏が優勢だが、ビオ氏も猛追、接戦が予想される。

シエラレオネでは1990年代を中心に、ダイヤモンド鉱山の支配をめぐる内戦が続いた。武装勢力の資金源「戦争ダイヤモンド」は、レオナルド・ディカプリオ主演の米映画「ブラッド・ダイヤモンド」（2006年）で世界的に有名になった。

今回の大統領選は、復興の本格化に向け「平和と民主主義の定着度を占う試金石」となる。07年就任のコロマ氏は、ダイヤモンドの輸出にけん引される経済成長によって一定の評価を受けているものの、汚職へ

の無策に批判が強い。元軍人のビオ氏は内戦中、クーデターで元首の座に就いたが、直後に民政移管した人物だ。

A P Cはテムネ族が多く住む北部、S L P Pはメンデ族主体の南部が地盤。複雑な民族事情を背景に、選挙戦中は両党支持者の衝突が起きており、投票当日は厳戒態勢だ。報道によると、結果は26日ごろ判明する。55%以上を得票した候補者がいない場合、12月に上位2人が決選投票を行う。

**\*現在の連続シリーズの特集である『フェアトレード特集』は次回フェアトレードラベル・ジャパン様へのインタビューを予定しており、継続しておりますが、今週は引き続き、お休み致します。**

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp